

34 地域子育て支援拠点型事業「なないろ」をきっかけに地域の発達支援の輪が広がった経過についての報告

秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 川俣ひとみ 杉本拓哉 星美弥子

【はじめに】

地域子育て支援拠点型事業「なないろ」は、診断は受けていないが発達に心配がある未就園児とそのご家族が気兼ねなく遊べる場所を提供することを目的に平成26年に開所した。開所後も、地域への周知活動や関係機関との連携に努めながら利用者の増加に繋げてきた。一方、サービス向上の一助とするため実施した平成27年度の利用者及び紹介者（市保健センター保健師）アンケートからは「アクセスが悪く利用しづらい」「アクセスの悪さから紹介しづらい」という意見をいただく結果を得た。この結果に基づき、平成29年度から改善への対応と地域ニーズの把握を目的に市内2カ所の児童館を会場に月1回の「出張なないろ」を開始した。その結果、「出張なないろ」を通じ地域の現状と住民ニーズを一緒に確認することとなった児童館が、継続の必要性を強く感じ、平成30年度から独自の発達支援事業を開始した。ここでは、発達支援の輪が地域に広がっていったその経過について報告する。

【経過】

●利用者及び紹介者アンケートのまとめ（H27年12月）

「アクセスの悪さ」を理由に利用できていない人の現状を確認する必要性や、アクセスの改善に向けたサービスの提供方法を検討した。

●市保健センターとの協議（H28年3月～）

「アクセスの悪さ」を理由に「なないろ」への紹介ができない人の状況と地域における発達支援の現状を確認し、「なないろ」の地域へのサービス展開に向けた意見交換を行った。

●発達支援事業を独自に行っている児童館の見学（H28年10月）

発達支援を行っている児童館の活動の様子の見学と情報交換を行った。

●市青少年課との協議～児童館館長会議への参加（H29年2月～H29年4月）

地域における発達支援の現状とその必要性を市青少年課に説明し、「なないろ」の地域展開を協議した。会場を児童館とする案に沿い児童館館長会議で説明を行い、同意が得られた後、2カ所の児童館で実施することが決定した。

●「出張なないろ」実施（H29年5月～H30年3月）から児童館の独自事業への展開（H30年5月～現在）

発達支援の必要性を強く認識した児童館が独自事業を立ち上げ開始した。

【まとめ】

「なないろ」は開始以来、利用者ニーズに寄り添う柔軟なサービスを展開してきたことが利用者の増加と満足度の評価に繋がってきたと考える。また、今回この実績が児童館の「地域の現状を知り、同様の事業の必要性を強く認識する」ということに結びつき、発達支援の輪を地域に広げる結果に繋がったものとする。今後は、この地域支援が発展的に継続していくための支援体制づくりを迅速に行っていくことが定着の鍵であると思われる。